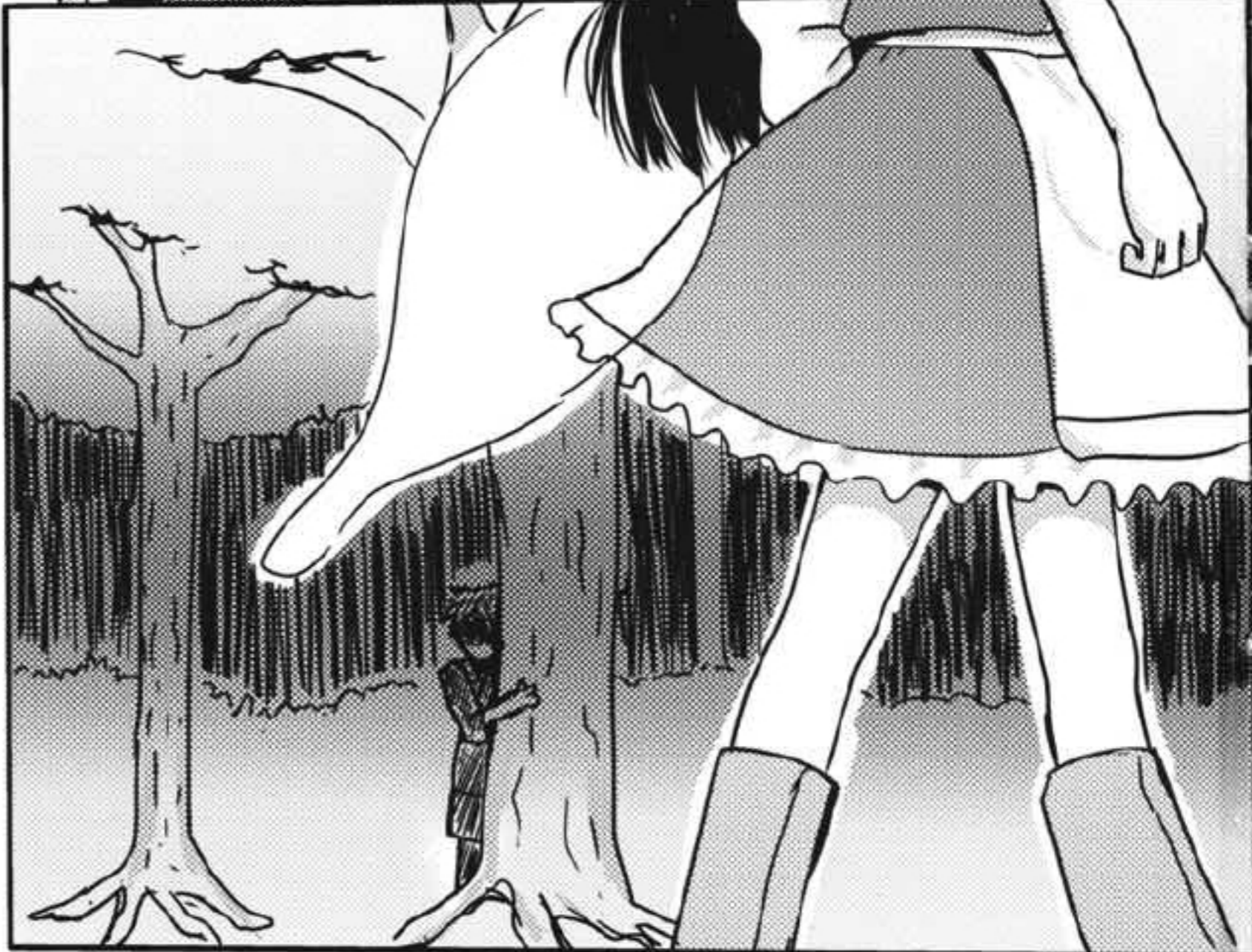
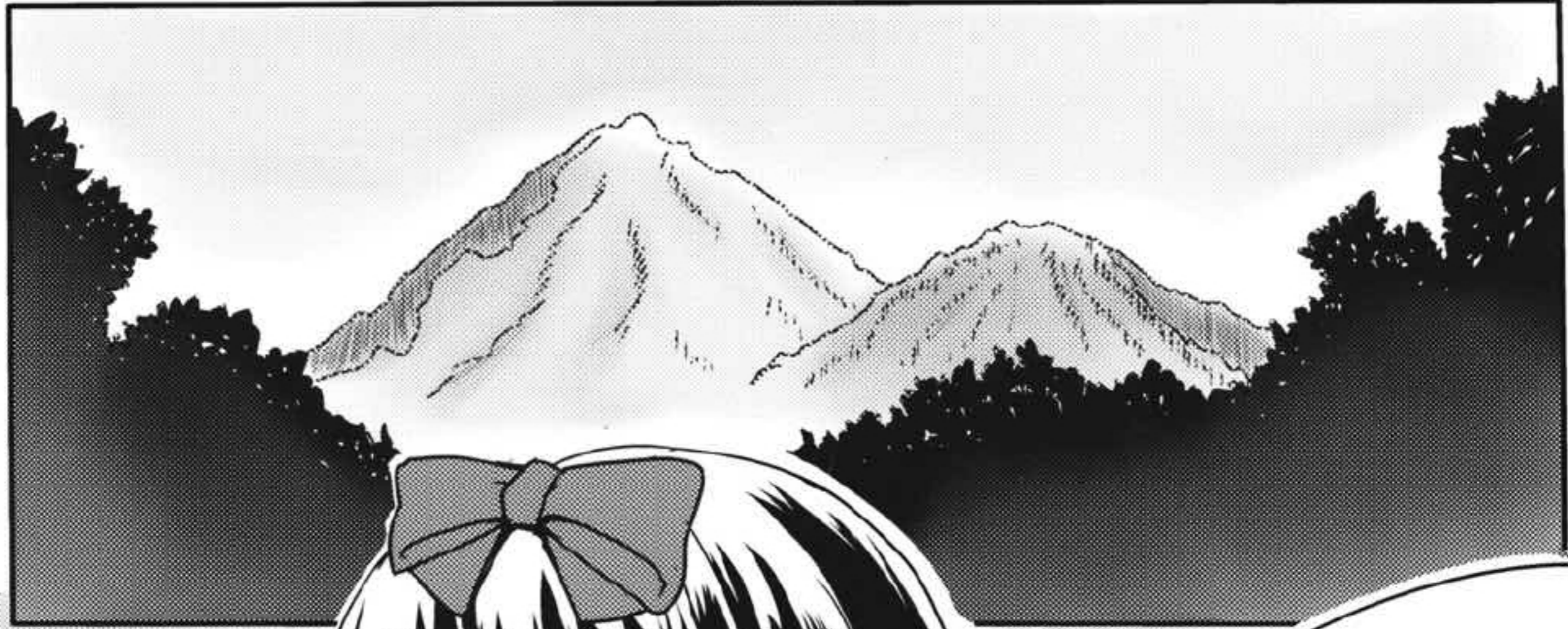
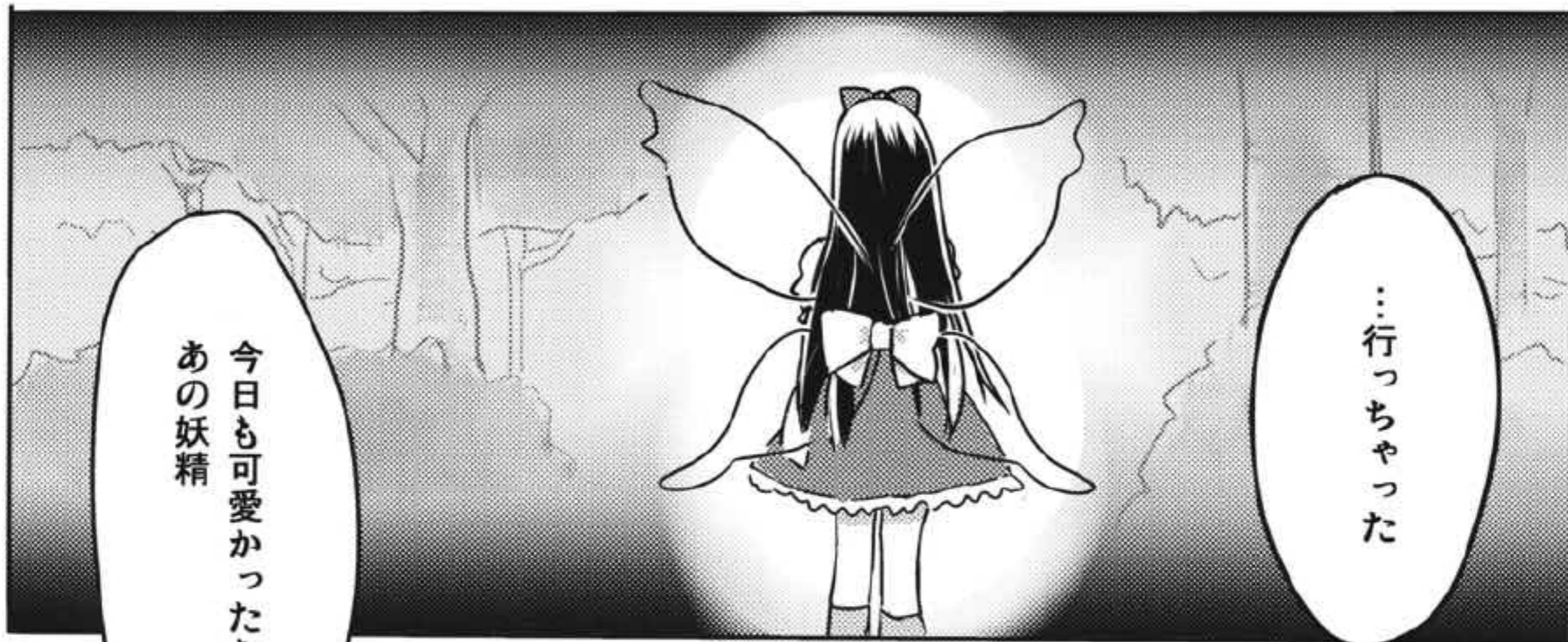


スターちゃん  
と  
ひざまくらに  
興味  
がござ  
います  
か？







…行っちゃった

今日も可愛かったなあ  
あの妖精

はあ…



妖精とスケベなことしたくて仲良くしてる奴なんか  
里じゃ聞いたことないぞ……

もん  
もん

でもなあ……



思い切って話しかけてみるか？

いっそのこと無理矢理  
襲ってしまおうか……



妖精さんのおまんこの奥、  
精液飲みたいって  
ギユウギユウって  
してるね

おちゃん

おちゃん

一番奥でいっぱい  
だしてあげるからね

おまんこ

おまんこ

おまんこ

中は  
ダメっ♡

おまんこ



おーい、  
てな感じで  
ガツツンガツツン突きまくって  
お願い中に出さないでって懇願する  
妖精さんの中にちんこ挿れたまま  
ビュービューイキまくる訳だ  
やべえ、ちんこ勃ってきた

じゅるー

もしもーし

ねえねえ  
おにーさん  
聞こえてますかー？



カアアア

何をひとり  
ぶつぶつ呟いてたの？

ぜんぜん気付かないんだもん  
何十回も呼んじやったわ



あ、やっと気付いた  
おにーさん  
ぼーっとしてるのね

ちよこん

キラキラ

はじめまして

私は星の光の妖精  
スターサファイア

今一番  
人間に興味がある妖精よ

おにーさんも  
妖精に興味が  
あるんでしょう？

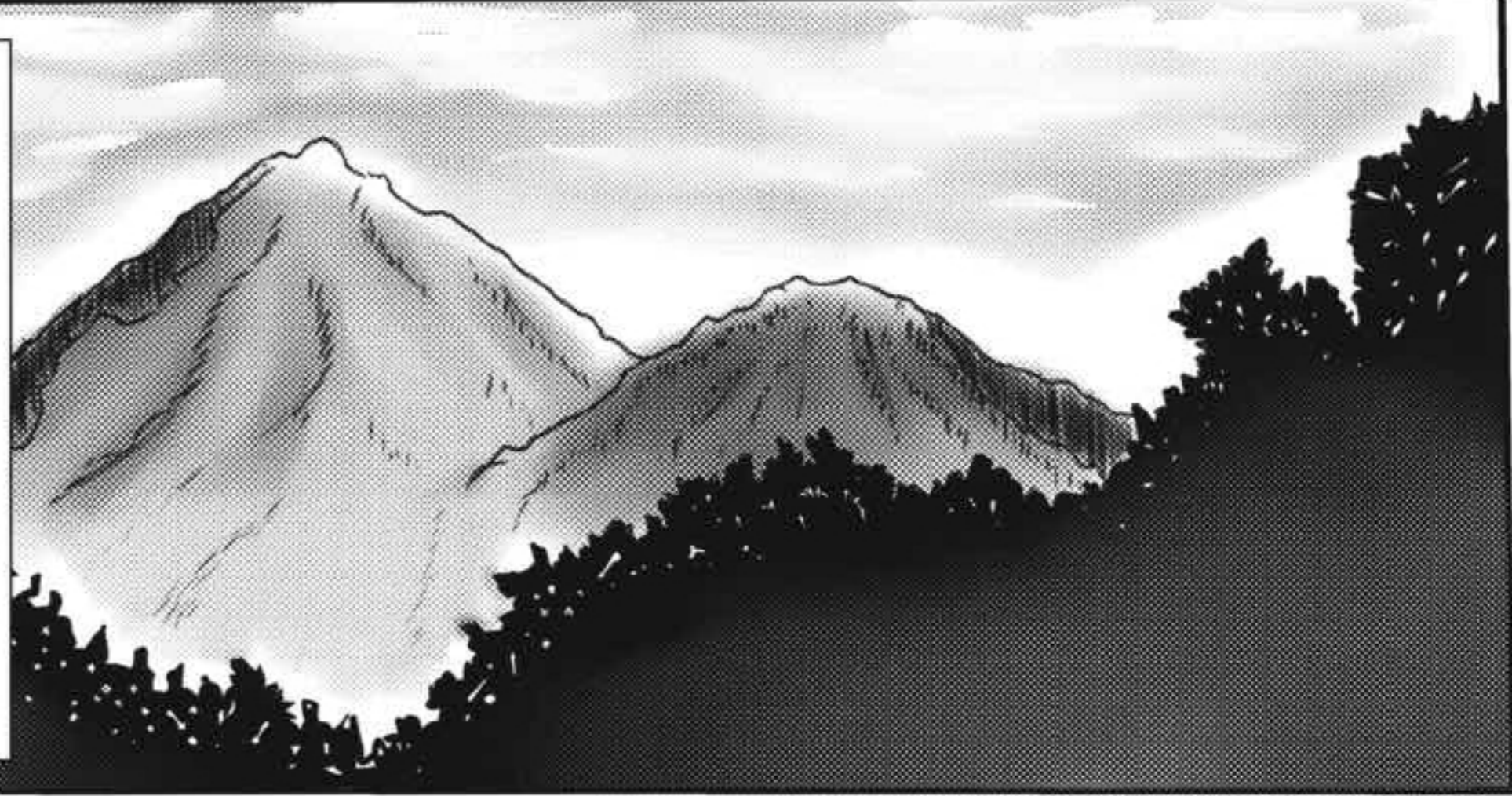
私のこと  
毎日見てるの  
知ってるんだからね

……って

どうしたの？

おなかでも  
痛いのか？

……いや、  
なんでもないんだ  
なんでもな



捕って喰おうって言う話  
じゃないわ  
人間に興味があるから  
明日もこの場所この時間で  
また会いましょうって話よ

本当にただそれだけなんだろうか……？  
だとすれば話しかけることに臆していた  
俺にとっては幸運以外の何者でもないが



しかし相手はただの妖精とはいえ人外  
油断するわけにはいかない……  
いかなが、本音を言えば  
これをきっかけにスケベなことをする  
関係にまでこぎつけたい



よし、もし危害を加える  
つもりならいっそのこと  
返り討ちにして無理矢理  
押さえつけてあの可愛いド

あー、ちゃんと来てたわね  
よかったわ







これ……全部スターちゃんがつくったのか？

もちろんですよ、  
はあ、いっしょに作ってあげ

まあ、これこそが私の人間研究の  
成果そのものってわけよ  
時々人間に味見させてみて  
意見を聞こうと思っ





すっげーうまかった！  
こちそうなま！



？



これほどの料理の腕があれば  
スターちゃんは良いお嫁さんにな  
れるよ！

……ん？  
そうか嫁……  
そうか嫁は  
考えてなかったが……



結婚しよー！

スターちゃん！！

って、いくらなんでも  
話が吹っ飛びすぎだ！  
これじゃいきなり  
何の話だよって思うだろ

それにしても  
ちっこくてやわらかい  
肩の感触が

.....

じゃなくて、  
早く冗談だったことにする  
とか何とか誤魔化さなくては  
せっかく距離が縮まったのに  
台無しになってしまう！



……っていうか  
なんとなくだが  
満更でもない様子  
みたいに見えるな

こういうこと  
はじめてだから  
……その……

照れてる顔が  
可愛いからしばらく  
見ていようかな？



……そろそろ開放して  
あげないと間が持たないな  
「なんてねびっくりし……」

……痛くしないでね

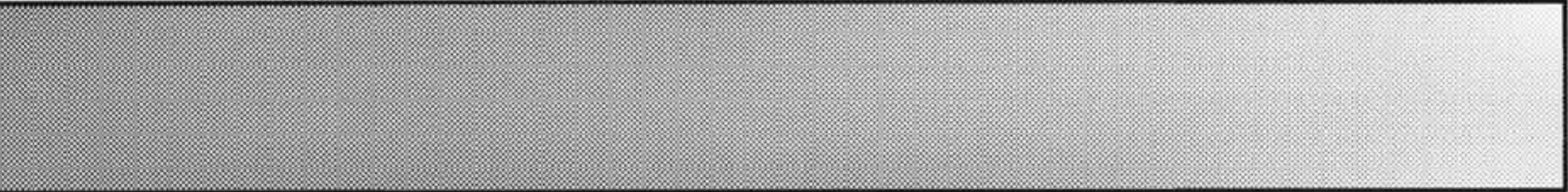
って、斜め上を  
行ったあああ!?



なんだこの幸運は

……  
こんな可愛い娘が  
……  
今までの人生は  
なんだったんだ





スターちゃんは軽くて  
やわらかくて  
いいにおいだなあ



私のおまんこをすぼすぼ使って  
おにーさんも気持ちよくなってるね



よ、妖精だからっけへんかい  
痛くもなんともないわ



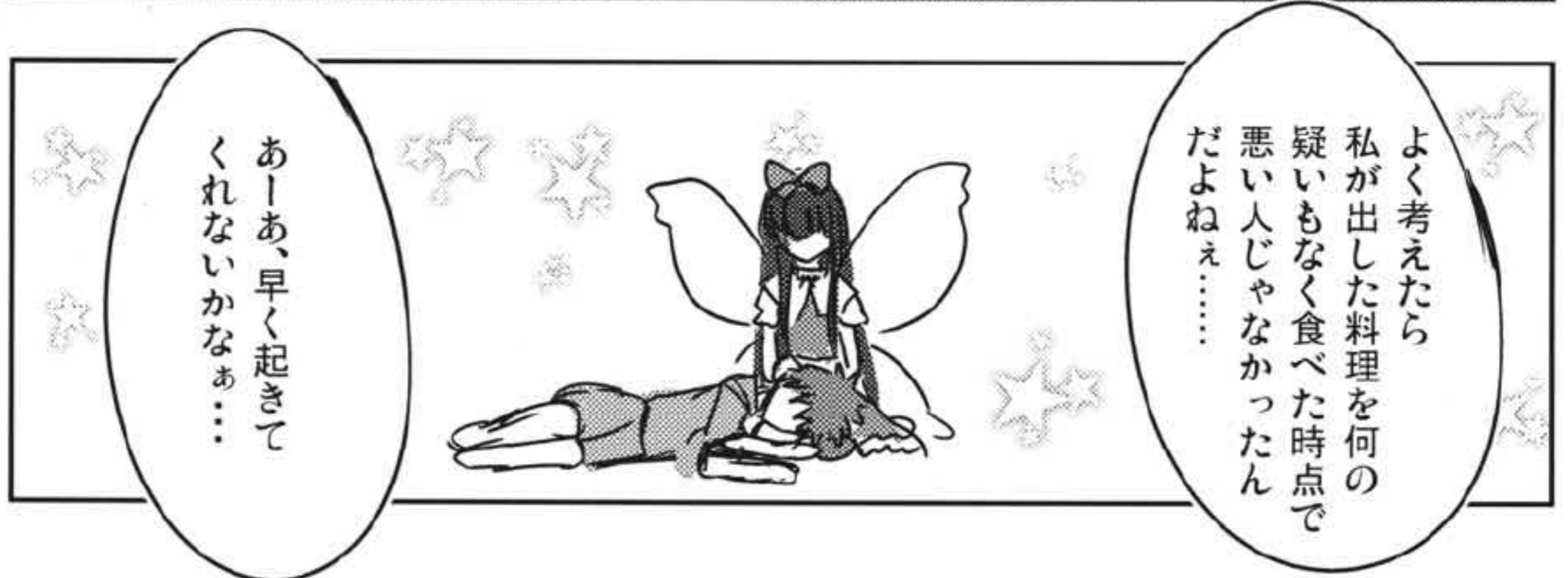
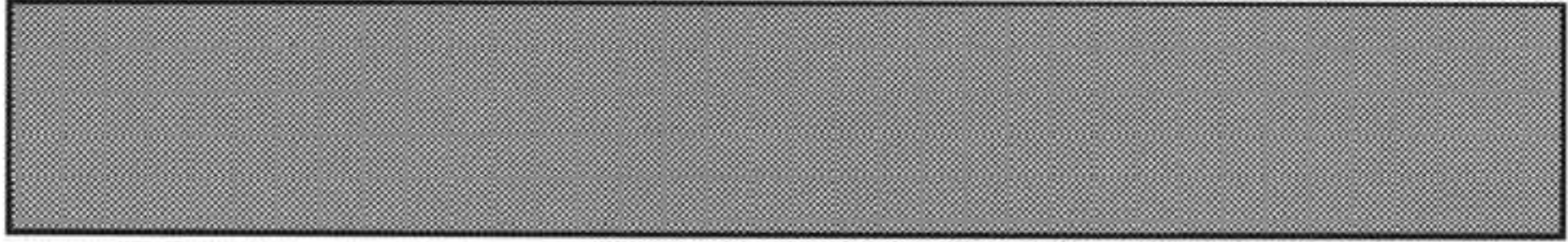
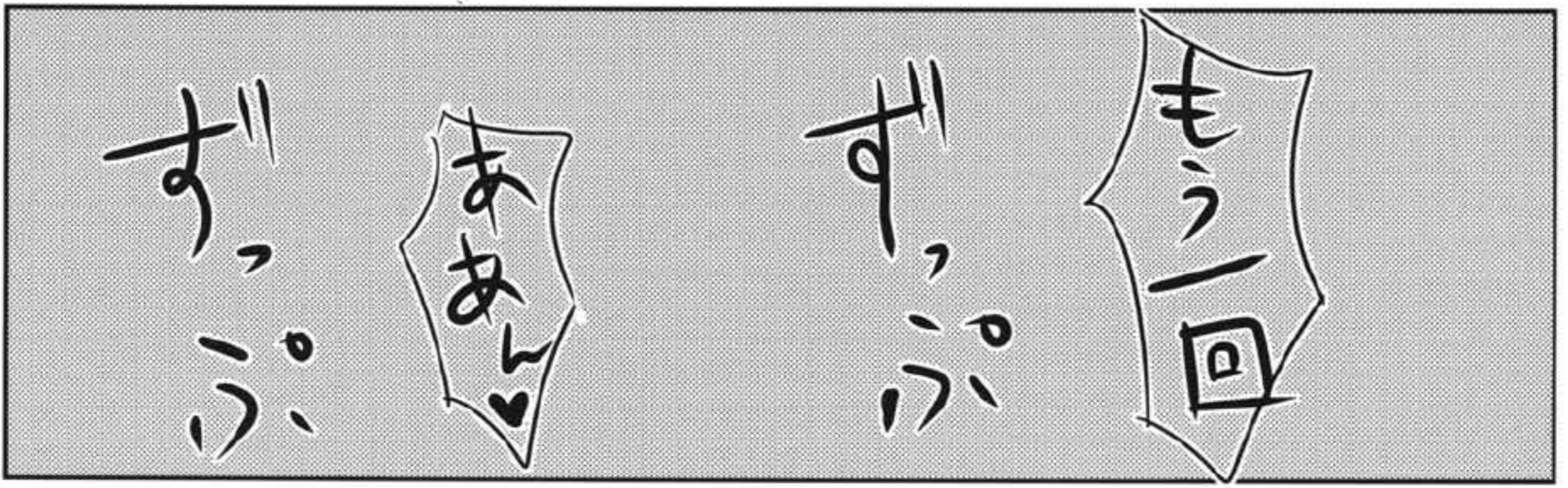
血が...

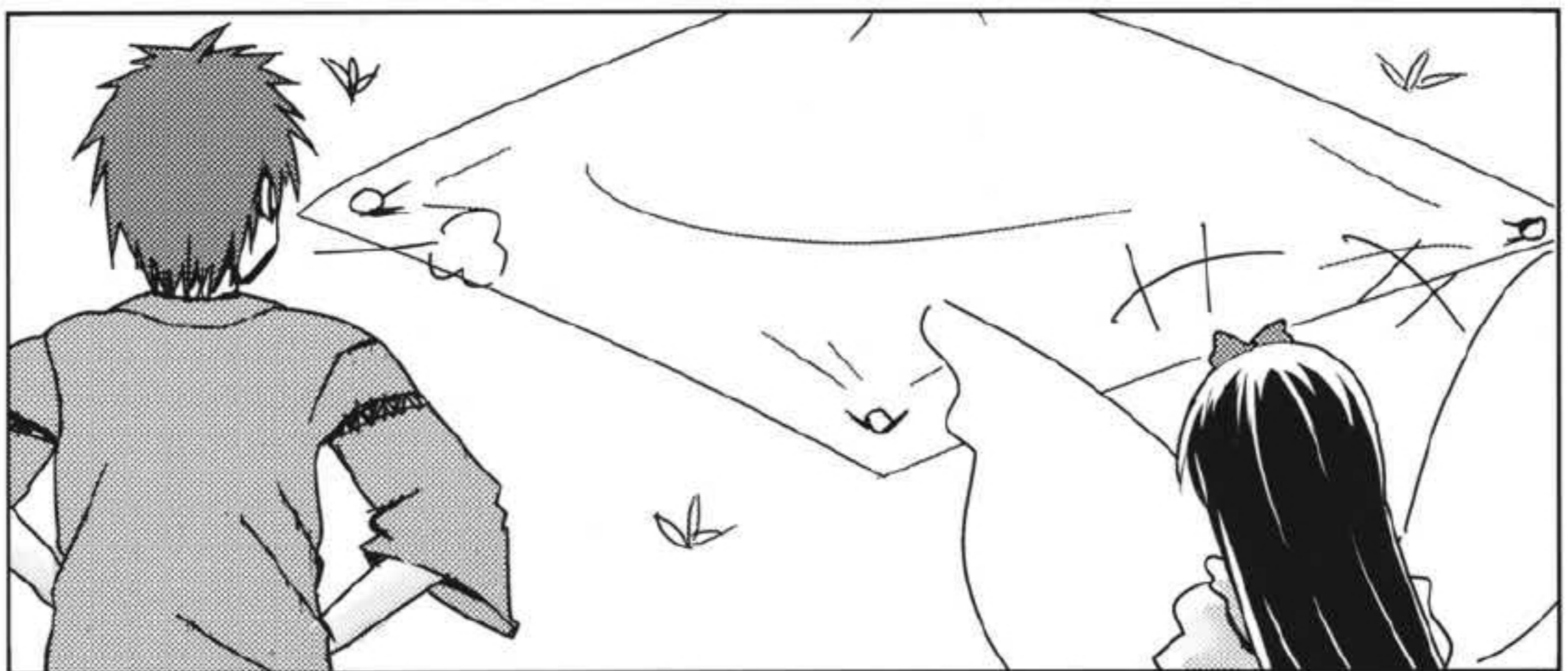
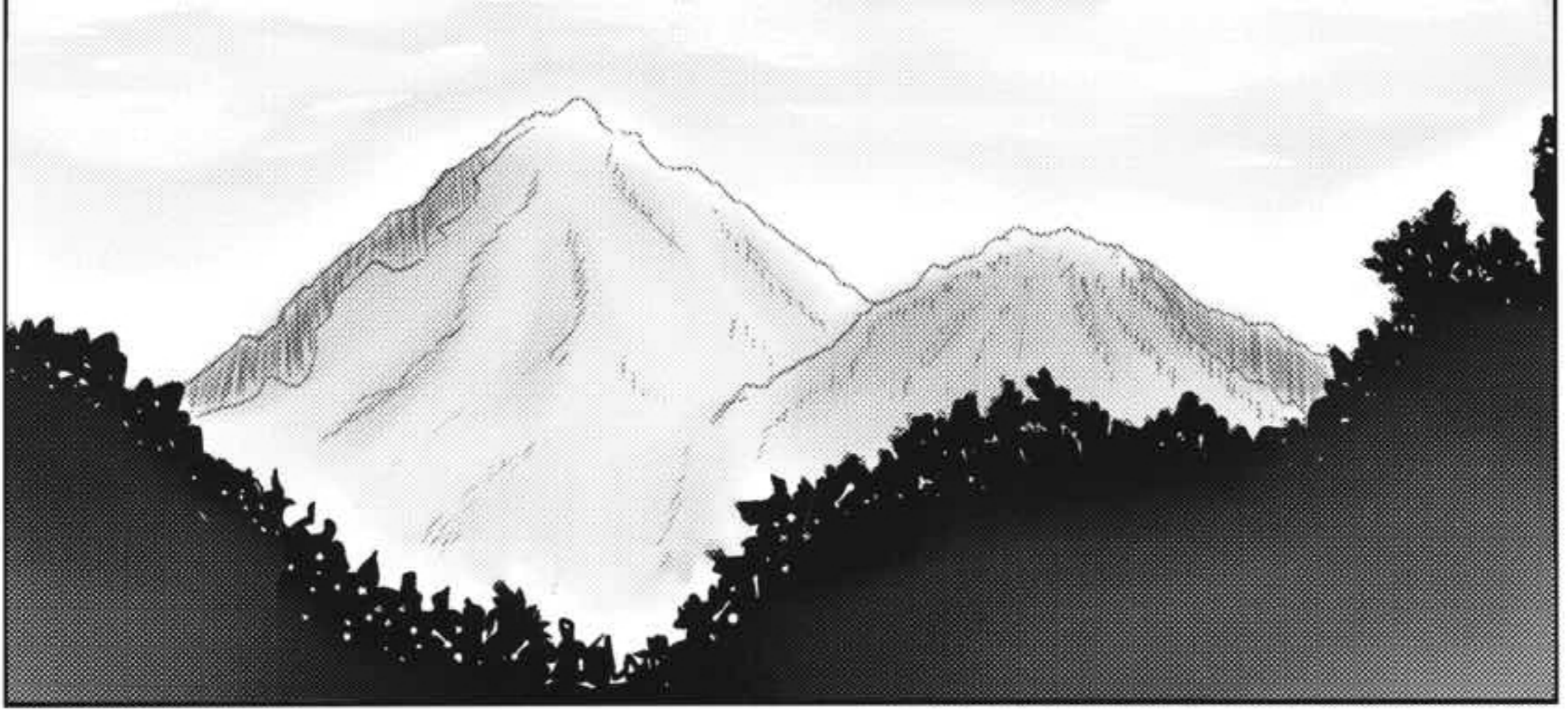
ホントね？  
だから遠慮しないで  
うっせーな



いいきない  
すっごい激し……！

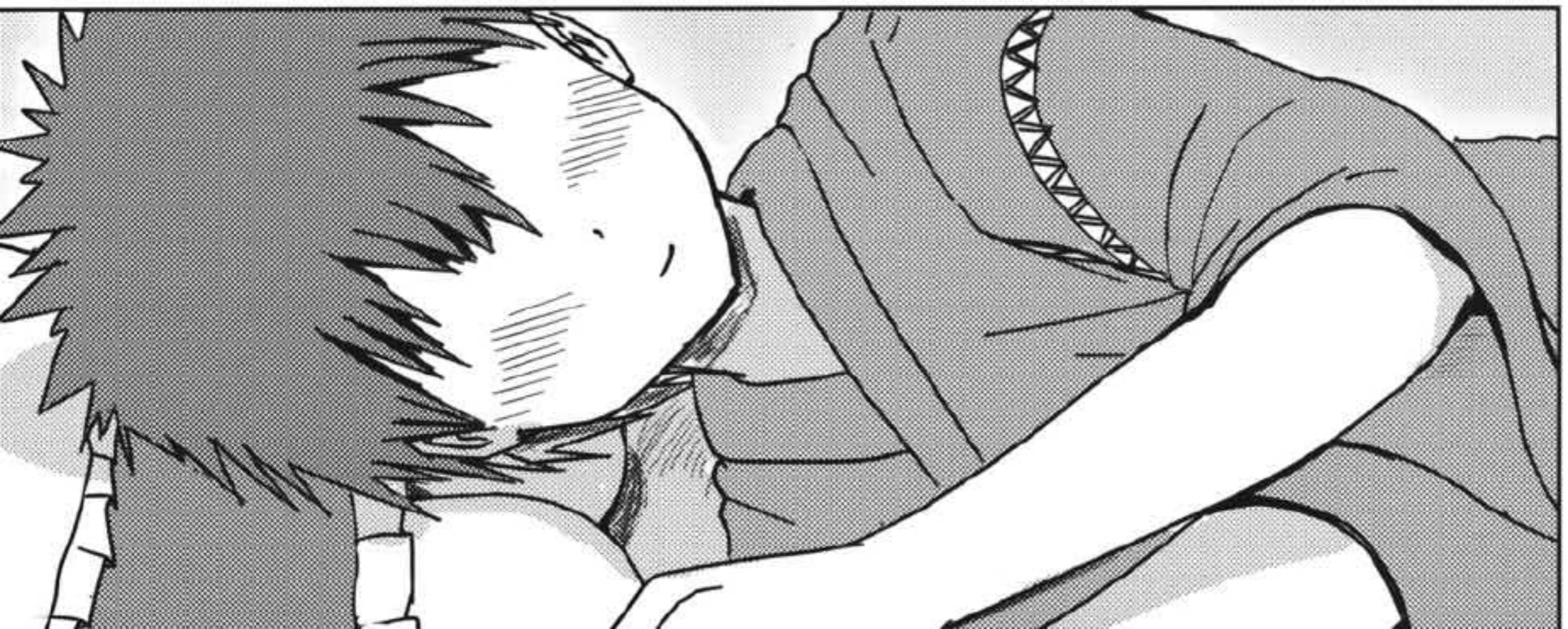
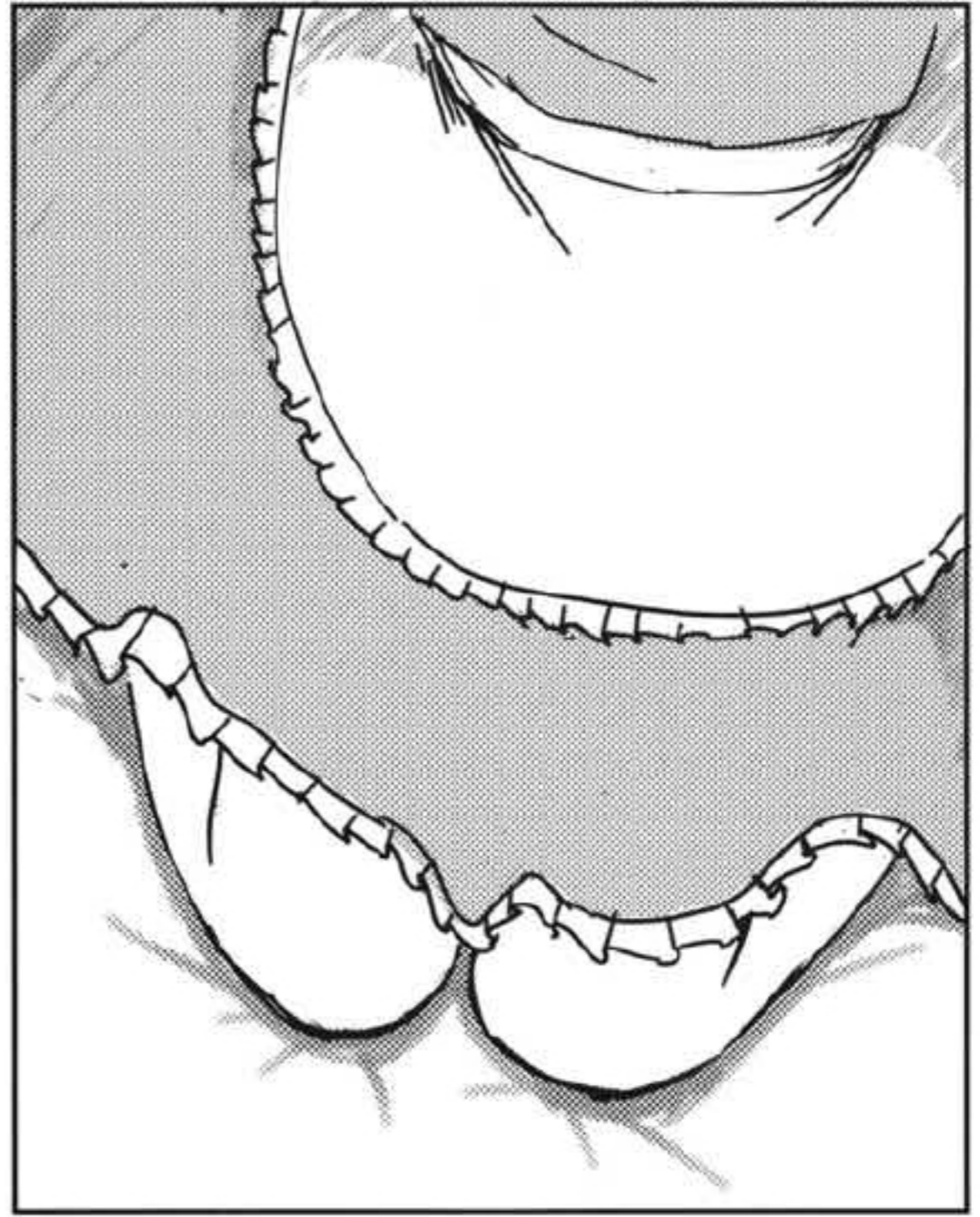












最初は遠くから見守るだけの片思いの相手に過ぎなかった。

しかしある日、彼女が人間の真似で作った料理の味見をして欲しいと申し出てから頻繁に二人きりで会うようになった。

ちなみに僕が彼女を毎日毎日物陰から見守っていた理由は単純にスケベなことをしたかっただけなのだ。



せっかく知り合いになれたのに襲い掛かって台無しにしてしまうのが惜しくて、こうして一緒に食事をする関係が続いているのだった。

今日は思い切ってひざまくらをお願いしてみたところ、これがあっさりと承諾してくれた。

フオオオオ！  
スターちゃんの  
おいとフトモモの  
感触たまんねえ！

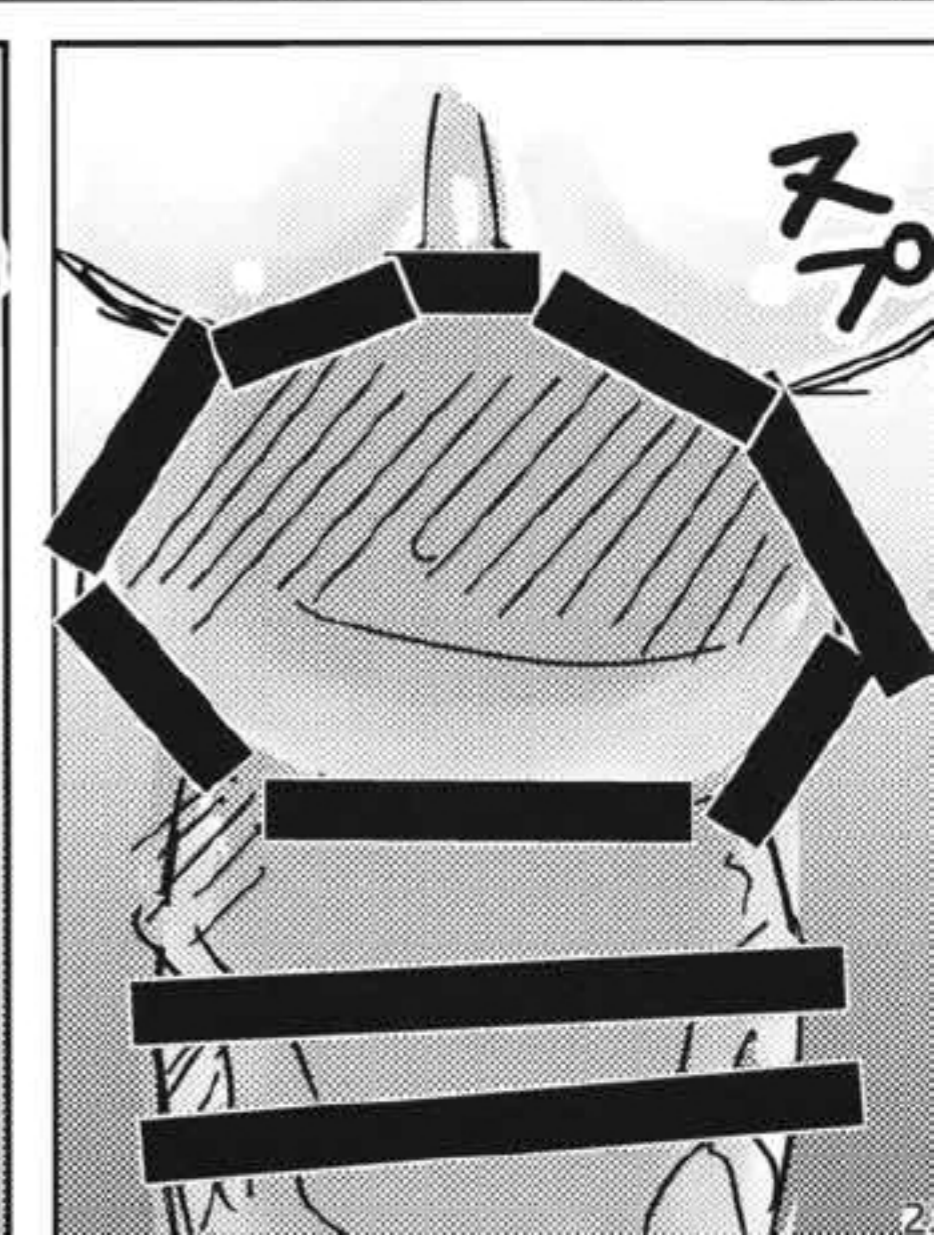
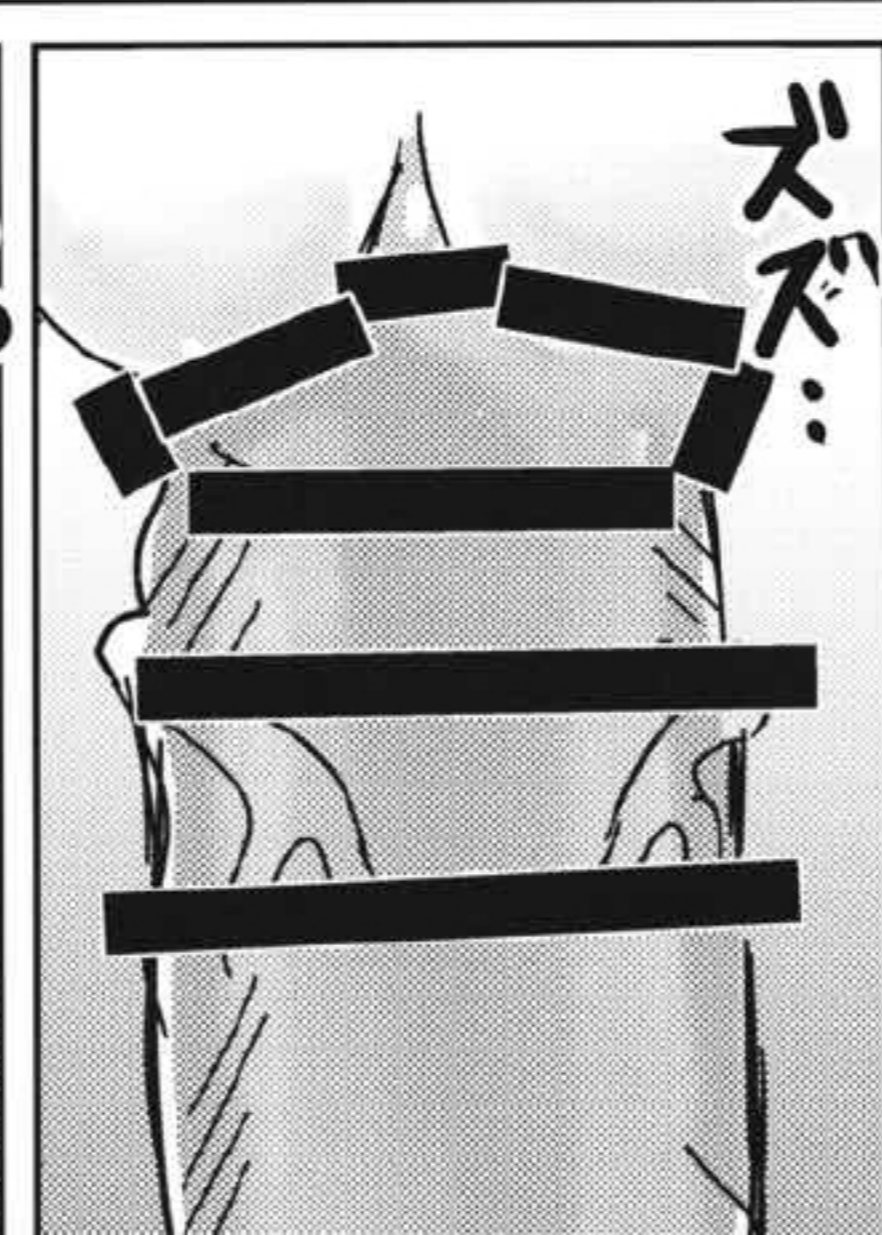
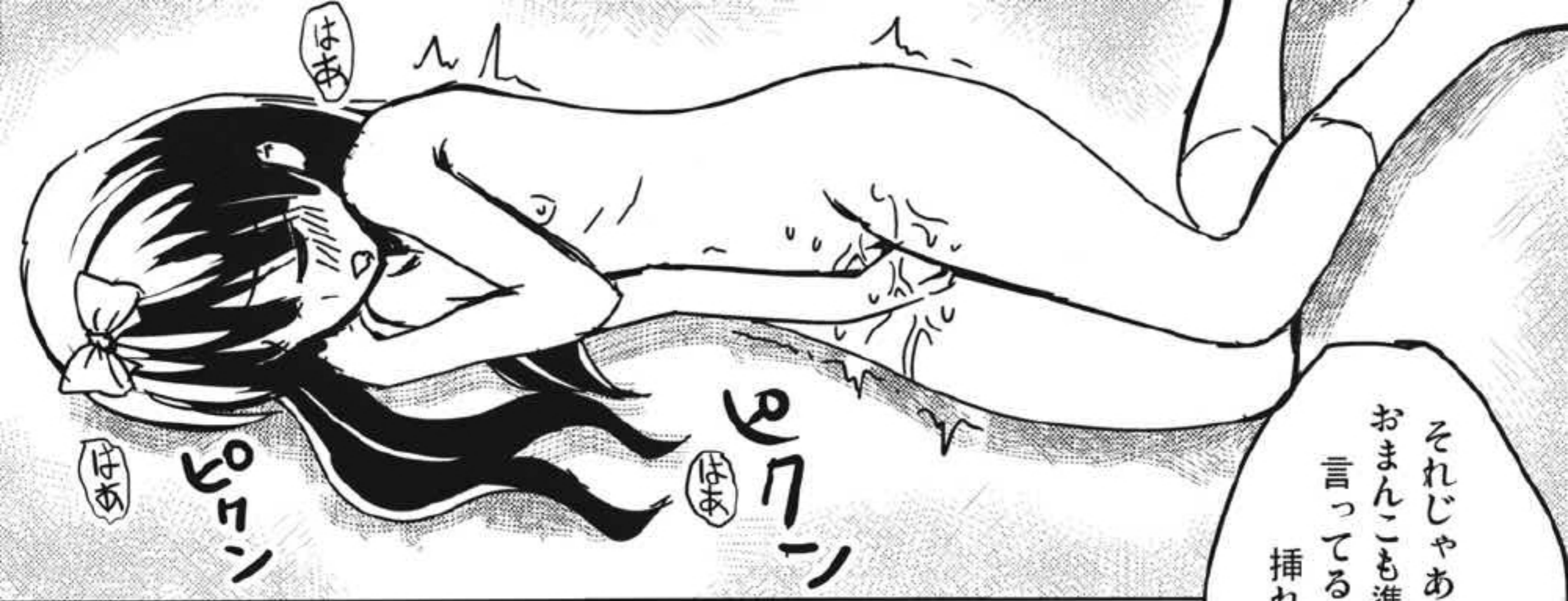
ハツ待てよ俺  
これはもしかして  
チャンスなのではないか

このおいと感触があれば俺ならゴハン3杯は軽くイケる！  
そしてこの体勢ならばスターちゃんからは俺がボッキしたとしても角度的に見えることはない！









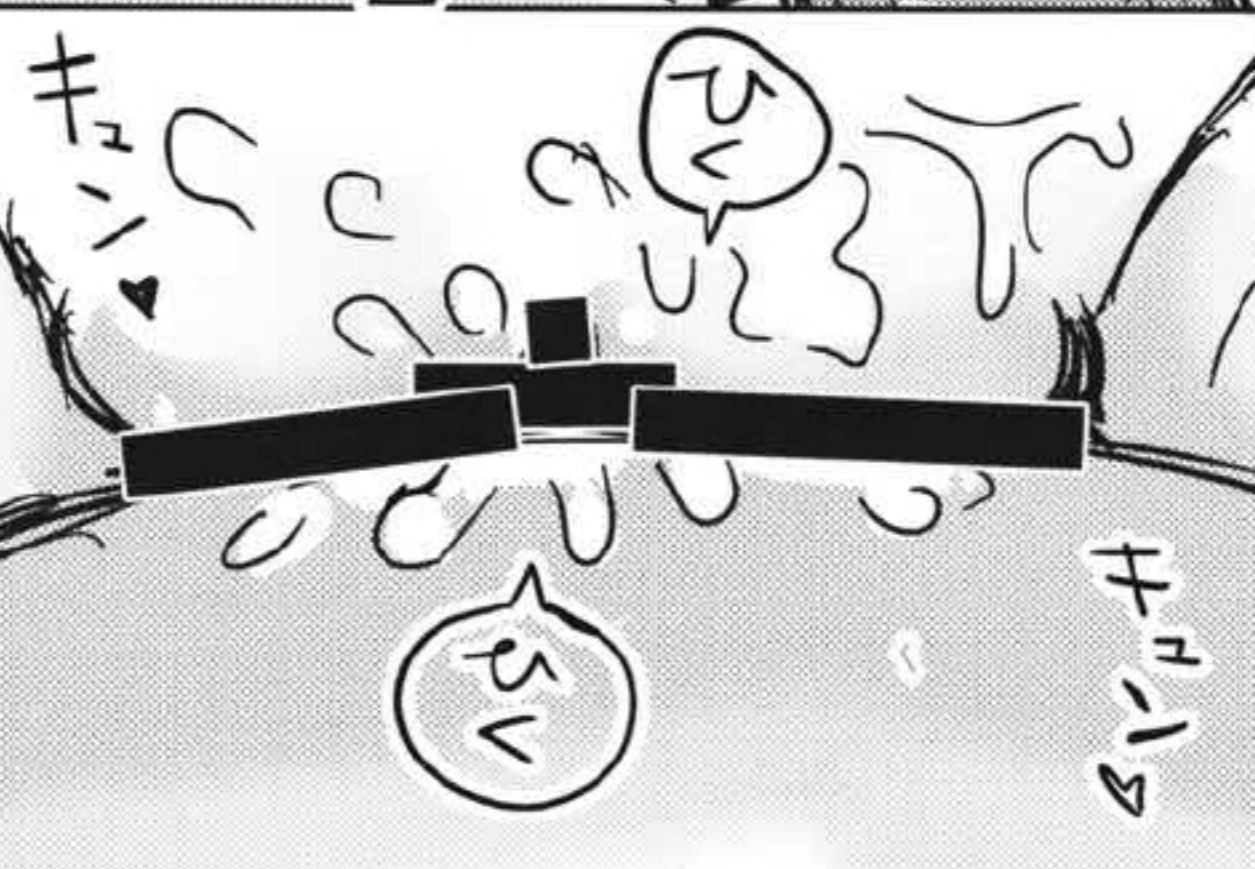


キョウウウウ

ズンズン

スターちゃんの処女まんこ  
やっぱりすごいや!  
一番奥まで挿れただけで  
大量に膣内射精しちゃった!

スターちゃんも気持ちよくなってるのかなり?まんこが  
キュンキュン締め付けて  
ちんこが中でどんどん  
固くなってるよ













### あとがき

はじめましてウサ小というものです。  
はじめましてじゃない方はもうお気づきかと思えます。  
この本は2014年の例大祭と紅楼夢で出した本の内容を  
絵だけリメイクしたという、アレです。  
スターサファイアちゃんの本ダッシュターボです。  
なおタイトルは2014年例大祭のほうは  
「黒髪ロングの妖精さんに興味はありますか？」  
2014年紅楼夢のほうは  
「スターちゃんとピクニックデートでひざまくらっ！」です。  
今回のタイトルは二つを混ぜたものにしました。  
発行部数は少なく、読みたくても読めなかった人が  
いたんじゃないかと大胆予想してしまいました。

また次の本もどうぞよろしくおねがいします！

ラビットハウス

